

# 水木歌寿栄、 水木流伝承曲ノート

平野 英 俊

## 1. はじめに

近世日本舞踊史の研究は多くの研究者によって語り尽されているように思えるが、日本舞踊が現在どういう人達によって伝承されているかを考えると、欠落している部分が大変多いのではないかと考えてならない。

日本舞踊の担い手は、必ず流儀というものに制約される。歌舞伎俳優も小さい時から何々流という流儀の師匠に教授されるのが通常であるから、近世日本舞踊は流儀の伝承と創造を無視して語ることはできない。

近世日本舞踊史の研究は、小寺融吉著「日本近世舞踊史」(昭和6)と九重左近著「江戸近世舞踊史」(昭和4)に代表される。小寺は、歌舞伎俳優を中心に、九重は歌舞伎所作事から日本舞踊曲をジャンル別に考察している。いずれも歌舞伎上演史から舞踊曲を抜き出して研究の対象としたもので、歌舞伎史の一部分の研究といってもいい。それ故今日の「日本舞踊」でいう「舞踊の近世」というものであったかという研究は未開拓といえる。

## 2. 水木歌寿栄、水木流伝承曲ノート

ノートに書かれた伝承曲は下記の通りであるが、六曲中五曲が歌舞伎で初演されている。では伝承曲を歌舞伎所作事に当てはめて考えていいかという、そうではないようだ。

歌舞伎と日本舞踊、二つの関係がどういうものであるのか、近世舞踊史の研究はこの問題が解決されないと、充分とはいえないのではないだろうか。

例えば「東丹前」は、本名題は「早咲枕丹前」といい、通称は「枕丹前」。水木流伝承曲では、

### 水木歌寿栄、水木流伝承曲ノート一覧

若 衆 (長唄)	?	?	?	?
しのぶ売 (長唄)	籬の垣衣草	宝暦12年正月	①尾上松助	市村座
東丹前 (長唄)	早咲枕丹前	宝暦6年11月	中村七三郎, 澤村喜十郎	中村座
今様春駒 (長唄)	雛祭神路桃の内 春駒おどり(中村富十郎七変化)	宝暦8年3月	①中村富十郎	市村座
白酒 (長唄)	春昔由縁英	天明5年正月	③瀬川菊之丞	江戸桐座
対面春駒 (長唄)	対面花春駒 <small>対面春駒は途中まで</small>	寛政3年正月	③市川八百蔵, ③瀬川菊之丞, ④岩井半四郎	中村座

(上)の巻の途中の「花のあづま」から伝承されている事から「東丹前」と通称している。

「今様春駒」は、官女、春駒おどり、杜若、やりおどり、傾城、山賤芝刈、布さらしの七変化所作の内二番目の「春駒おどり」が伝承された。

二つの初演時、宝暦6年、8年を水木流系譜に当てはめると、二代水木歌仙というお狂言師の時代に伝承されたものだろうか。

このように二曲とも定かではないが、伝承された曲の振付の考察、流派史、音楽面の考察などを深めて、水木流伝承曲二曲が近世日本舞踊史にとってどういう位置を占めるのか、研究を進めなければならない、水木流舞踊、及び歌舞伎所作事史が深まることになると思う。



長唄「早咲枕丹前」上、下の正本表紙



長唄「雛祭神路桃」上、下の正本表紙